

団体名

公益財団法人
福島県国際交流協会

多文化共生のまちづくり推進事業

ジャンル

推進体制の整備

事業費総額 1,266 千円

事業名

外国出身者コミュニティとの協働推進事業～多様なコミュニティの発掘と連携～

事業のポイント

- ◇県内各地に潜在している外国出身者コミュニティの把握。
- ◇それぞれの外国出身者コミュニティのニーズを聞き取り、そのコミュニティ対象の講習会を実施。
- ◇外国出身者コミュニティの概要や協働で実施した講習会の様子を日本語及びその国の言語で HP に公開し、ネットワーク構築を支援。

事業の背景・目的

- ◇東日本大震災の際、県内各地の外国出身者コミュニティがキーステーション的存在となり、セーフティネットの一つとして大きな役割を担っていた。一方、当協会が把握している外国出身者コミュニティは、10 団体程度に留まっており、当協会との連携も十分ではない状況であった。
- ◇そこで、県内に様々な形態で存在する外国出身者コミュニティを把握するとともに、当協会とこれらのコミュニティとの協働事業の実施を通じて、当協会と顔の見える関係性を構築し、さらに各コミュニティの自助力・共助力の向上に繋げることをねらいとした。

事業の概要

1 外国出身者コミュニティの把握とその概要の公開

市国際交流協会からの情報収集等により、約 40 の外国出身者コミュニティを把握した。また、協働事業を実施した団体を中心に、コミュニティの概要を当協会 HP で多言語化して公開した。

2 外国出身者のための相談窓口の周知

外国出身者に対し、当協会の総合相談窓口の連絡先の周知を図るため、名入ボールペンを作成、配付した。

3 外国出身者コミュニティとの協働事業の実施

下記のとおり 11 のコミュニティと協働で事業を実施し、その結果を多言語化して当協会 HP で公開した。

(<http://www.worldvillage.org/kouryu/keyperson.html>)

協働団体名(場所)	講習会名(参加者数)
つばさ一日中 HALF 支援会(須賀川市)	日本の教育制度を知りましょう(中国出身者 12 名)
Iwaki Filipino Community(いわき市)	ストレスマネジメント(フィリピン出身者 16 名)
子ども向け中国語サークル「パンダ」(いわき市)	日本の小学校に入学するにあたって(中国出身者等 8 名)
(ベトナム料理店を中心としたコミュニティ)(会津若松市)	日本における化粧の作法(ベトナム出身者 5 名)
福島県台湾同郷会(三春町)	『台湾フェア』(来場者数 52 名)(台湾出身スタッフ 5 名)
(教会を中心としたコミュニティ)(福島市)	国際結婚者のライフスタイルに応じた在留資格(フィリピン出身者等 8 名)
郡山中国帰国者の会(郡山市)	高齢者の健康管理～漢方医学から～(中国出身者 14 名)
チームブラジル(福島市)	講習会「日本での老後に備えて」(ブラジル出身者等 11 名)
Hawak Kamay Fukushima(福島市)	栄養のバランスの取れた食事について(フィリピン出身者 8 名)
(ベトナム料理店を中心としたコミュニティ)(郡山市)	外国人のための防災講座～地震に備えるために(ベトナム出身者等 17 名)
福島多文化団体「心ノ橋」(いわき市)	日本の礼法(中国出身者 19 名)



フィリピン出身者コミュニティによる「ストレスマネジメント」



ベトナム出身者コミュニティによる「化粧の作法」

事業実施における工夫点・事業の成果等

- ◇新たに 22 の外国出身者コミュニティを把握することができた。
- ◇外国出身者コミュニティとの協働事業の実施に向けて、何度も顔を合わせて打合せをしたため、外国出身者コミュニティの現状が把握でき、さらには外国出身者コミュニティと顔の見える関係を築くことができた。
- ◇協働事業の実施に向け、外国出身者コミュニティが講師等と打合せをする際、講師自身に外国出身者への配慮の意識が芽生え意識啓発に繋がったことは、想定外の成果だった。
- ◇協働事業の実施に当たっては、会場手配、参加者の募集及びとりまとめ、当日の受付、司会、関係機関との連絡調整等を分担したため、外国出身者コミュニティが主役になれる場を提供することができた。
- ◇協働事業としての講習会等のテーマは、そのコミュニティが希望した内容としたため、ニーズに合致したものを提供することができた。さらに、必要に応じて通訳を入れ、また参加者が同国出身者であったことから、安心して学ぶ場を提供することができた。

今後の課題・将来に向けての展望等

- ◇県内には、今回把握した外国出身者コミュニティ以外にも様々な形態のコミュニティが存在していると考えられるので、今後も引き続き様々なネットワークを活用して把握に努めたい。
- ◇セーフティネットの多重化に向けて、外国出身者コミュニティ間のネットワークの構築が図れるような事業も実施していきたい。
- ◇外国出身者コミュニティのメンバー間の結びつきの強化は、地域との交流の希薄化と表裏一体の関係となる場合もあるため、外国出身者コミュニティに対し、自らの活動に関する地域への情報発信や地域行事への参加などを勧める一方、当協会 HP 等で外国出身者コミュニティの活動を積極的に地域に広報していきたい。
- ◇外国出身者コミュニティのキーパーソンは、高い日本語力を有する場合が多いことから、当協会からの日本語の情報をキーパーソンに翻訳通訳してもらい、メンバーに伝達してもらえるようにしていきたい。



中国出身者コミュニティによる「日本の礼法」

事業担当者のふりかえり

- ⇒ 今回の協働事業の実施に向けて、インド、タイ、ベトナムなどの料理店に幾度となく通い、ランチを食べながらオーナーやそこに集まってくる外国出身者と話をし顔の見える関係を築いていった。講習会の準備を進めるに当たっては、コミュニティが主役の事業となり、彼らがとても生き生きしていた。
- ⇒ 今回の事業を通じて、現場に出向いて当事者と直接話すことの大切さを再認識させられた。